

五

G-0021

0243

9

外国港情予示

通商局

第一號

昭利參年三月拾八日接受

別紙添附

公第シ九五 號

昭利參年三月廿參日

昭利參年五月廿參日

在オデッサ

領事島田 滋



歐米局

事務大臣岡田村田中第一殿

ニコラエフ港改修情報報告二件

分類(1,2,0,1)

671,156

ニコラエフ港ハ里海ノ北岸ニ於テ最大ノ造船
所ヲ有シ穀物輸出港トシテオデッサ港ト異大
懸奇港ニ立地スルニ於テ即チ出港ノ距離僅

ニコラエフ港ハ里海ノ北岸ニ於テ最大ノ造船
所ヲ有シ穀物輸出港トシテオデッサ港ト異大
懸奇港ニ立地スルニ於テ即チ出港ノ距離僅
クニシテ其意ヲ果サカリ。次第ナク、十月十日
野口書記生等道向乗車ニ依リ、白蟻クニ船二
時向ニシテ市及田地港内、視察ナリ。其一
結果別紙ノ如ク、田地ノ近傍概テ新築ニ
御査閱奉テ致シ
申候旨送付也
右票酒向代理大使

CH

G-0021

0244

在
外
公
館

| | | | | |
|---|--------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|------------------|
| 一 | 二 | 三 | 四 | 五 |
| 二 コ ラ エ フ オ ケ ワ サ 、 同 交 通 | 二 コ ラ エ フ 市 極 親 | 二 コ ラ エ フ 港 | 二 コ ラ エ フ 造 形 町 | 対 口 感 情 |

目次

二コラエフ港遊情

昭和三年十一月

一

二

三

四

五

六

七

八

九

十

十一

十二

十三

十四

十五

十六

十七

十八

十九

二十

二十一

二十二

二十三

二十四

二十五

二十六

二十七

二十八

二十九

三十

三十一

三十二

三十三

三十四

三十五

三十六

三十七

三十八

三十九

四十

四十一

四十二

四十三

四十四

四十五

四十六

四十七

四十八

四十九

五十

五十一

五十二

五十三

五十四

五十五

五十六

五十七

五十八

五十九

六十

六十一

六十二

六十三

六十四

六十五

六十六

六十七

六十八

六十九

七十

七十一

七十二

七十三

七十四

七十五

七十六

七十七

七十八

七十九

八十

八十一

八十二

八十三

八十四

八十五

八十六

八十七

八十八

八十九

九十

九十一

九十二

九十三

九十四

九十五

九十六

九十七

九十八

九十九

一百

一百一

一百二

一百三

一百四

一百五

一百六

一百七

一百八

一百九

二百

二百一

二百二

二百三

二百四

二百五

二百六

二百七

二百八

二百九

三百

三百一

三百二

三百三

三百四

三百五

三百六

三百七

三百八

三百九

四百

四百一

四百二

四百三

四百四

四百五

四百六

四百七

四百八

四百九

五百

五百一

五百二

五百三

五百四

五百五

五百六

五百七

五百八

五百九

六百

六百一

六百二

六百三

六百四

六百五

六百六

六百七

六百八

六百九

七百

七百一

七百二

七百三

七百四

七百五

七百六

七百七

七百八

七百九

八百

八百一

八百二

八百三

八百四

八百五

八百六

八百七

八百八

八百九

九百

九百一

九百二

九百三

九百四

九百五

九百六

九百七

九百八

九百九

一千

一千一

一千二

一千三

一千四

一千五

一千六

一千七

一千八

一千九

二千

二千一

二千二

二千三

二千四

二千五

二千六

二千七

二千八

二千九

三千

三千一

三千二

三千三

三千四

三千五

三千六

三千七

三千八

三千九

四千

四千一

四千二

四千三

四千四

四千五

四千六

四千七

四千八

四千九

五千

五千一

五千二

五千三

五千四

五千五

五千六

五千七

五千八

五千九

六千

六千一

六千二

六千三

六千四

六千五

六千六

六千七

六千八

六千九

七千

七千一

七千二

七千三

七千四

七千五

七千六

七千七

七千八

七千九

八千

八千一

八千二

八千三

八千四

八千五

八千六

八千七

八千八

八千九

九千

九千一

九千二

九千三

九千四

九千五

九千六

九千七

九千八

九千九

一万

一万一

一万二

一万三

一万四

一万五

一万六

一万七

一万八

一万九

二万

二万一

二万二

二万三

二万四

二万五

二万六

二万七

二万八

二万九

三万

三万一

三万二

三万三

三万四

三万五

三万六

三万七

三万八

三万九

四万

四万一

四万二

四万三

四万四

四万五

四万六

四万七

四万八

四万九

五万

五万一

五万二

五万三

五万四

五万五

五万六

五万七

五万八

五万九

六万

六万一

六万二

六万三

六万四

六万五

六万六

六万七

六万八

六万九

七万

七万一

七万二

七万三

七万四

七万五

七万六

七万七

七万八

七万九

八万

八万一

八万二

八万三

八万四

八万五

八万六

八万七

八万八

八万九

九万

九万一

九万二

九万三

九万四

九万五

九万六

九万七

九万八

九万九

十万

十万一

十万二

十万三

十万四

十万五

十万六

十万七

十万八

十万九

一

G-0021

0245

在
外
公
館

省
外
報

二コラエフ港遊情

在
外
公
館

日
本
領
事
館

昭和三年十一月

秋

秋

二コラエフ港近情

一、二コラエフ、オカワサ同交通。
 二、コラエフ港ハオカワサ港ヨリ陸路約百四十キロメ
 ル、地味、ナリオカワサヨリハ自備車ニテ早ナハ三
 時同達ナリ。同(故障ナキ場合)ニテ遠クハ
 二時、又海路ハソフトハゴッホト、定期汽船ナリ
 同下知如概路トシテ草地ハ同、毎週月水金ノ三回
 配通ナリ。途中ナキナリ。一寄港ニテ航程ハ約百回
 ナリ。毎年ハ夏期ニ毎週三回定期船ナリ。

在外公館

オカワサ、二コラエフ同交通、亦通盤ニシテ、二コ
 ラエフ、夏ニ汽船汽船自備車ニテ、ヘルソニ、二港ニ
 ル。同ノ二港、オカワサ市郊外ハ陸路ニコラエフハ
 遠クハ自備車更通過、林ノ外周高ニコラエフヨリ
 ハ、同ノ研究ニトシテ宣傳口又計画自備車ハ、概ニ休
 眠、概ニ人側ヨリ歩路ノ改善ニテ、同ノ若機同紙上
 ニテ、概ニ表シ、概ニ他種自備ノ種類ニ出シ、概ニ
 高ニシテ概ニ如ク申セ、若シカニ、同ノナリナリ
 ハ、概ニ自備車同如ク同、差キ同、同ノナリナリ、概ニ
 ナリ、同ノ、又今回ハ官若自備車ニテ、概ニナリ、概ニ

在外公館

代者若く書付せしむるに始りて其の思ふ所
 滞結の思ふ所を以て之を以て其の思ふ所
 何れ二十甲の同様に此の思ふ所を以て其の思ふ所
 可く其の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 幼の即ち其の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 一の後述の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 何れその思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 十一月二十日の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 日教の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 此の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所

在外公館

市氏何れその思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 此の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 又、其の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 要之を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所を以て其の思ふ所
 (昭和五年十一月二十日)

在外公館

G-0021

0251